

シネマズライフ

2017年7月21日発行 第128号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

たかぎ りおん
貴樹 諒音

【最近のこれはお見事!】

『海辺の生と死』確かに、海には『生と死』が混在していると思う。

【最近のこれはまずいぞ!】

『ハイドリヒを撃て! ナチの野獣』暗殺作戦

映画の風景 日本の風景

＊ 梅田芸術劇場 ＊



← 梅田芸術劇場

『ブロードウェイと銃弾』という映画があった。こんな映画だ。

アメリカ・ブロードウェイ。まだ、ギャングが幅を利かせていた時代。新進気鋭の脚本家・デビッド・ボンサーはなんとギャングになった。そのスポンサーはなんとギャングの親分のニック。女優志願の恋人・オリーブを出演させる為だ。乗り気ではなかったが、脚本を舞台化する為には仕方がない。しかし、主演を名女優・ヘレン・共演は名優ワナーに決める。ところが、問題はギャングの親分ニックの恋人・オリーブ。声もキーキーな上、演技が素人。しかし、役を降ろす訳にもいかず、稽古が始まった。

さて、舞台は完成しボスロードウェイでの初演は好評、次はブロードウェイでの上演と決まった頃、ある大事件が起こる……

新人脚本家とはいえず、自分の書いた作品をおあだこうだ言われるのは気持ちのいいものではない。これは、何事にも言える事。世の中、関係ないのに「口を突つ込む」のは混乱の元。昨今、それに気づいている人が少ない気がする。

梅田芸術劇場は、大阪を代表する大劇場。公演が変わる度に、毎回悲喜こもごもが起こっていると思うとそちらの方を覗いてみたい気がする。

『ブロードウェイと銃弾』1994年 アメリカ 監督脚本：ウディ・アレン 脚本：ダグラス・マクグラス
出演：ジョン・キューザック、ダイアン・ウィースト、ジェニファー・ティリー、チャズ・パルミンテリ、ジャック・ウォーデン、ロブ・ライナー

ご多分に漏れず舞台の間中恋愛騒動があっちこっちで勃発!しかし、それをうまくさばいたウディ・アレン監督はさすが。

コラム

『車音』が見えにくくなる時代

前編

ここ一か月ぐらいでSNS上で公開される映像・文章で騒ぎになっている事が増えた。SNSでの多くの観客が多いだけに、「コメント」でできる欄で『賛成』『反対』など語り、『敵』も『味方』も増えるから、時代というものは面白い。そこで批判する人も味方する人も、「これくらいはいいじゃないか」という「物差し」がある訳で、味方だと物差しは長く、敵だと短い。しかし、もう一つ「世間の物差し」があり、大方の人はこの「世間の物差し」で判断する訳だ。



日頃Twitterでキツイ事を書いている人が、実際会ってみると自分の意見はよく聴いてくれるし、Twitterと違い優しく「意見」してくれると、評判とは違い「すっごくいい人!」って思い、それが政治家だつたりすると、「自分の意見を聞いてくれる」と、その後はその人を「支持」するようになる。

こういう方法論は、政治家とかがよく使う方法で、映画で一番分かります。『ブロードウェイと銃弾』の主人公の一人、キャスターのトムが、日頃意見など無視されている番組のスタッフに「意見」を聞き、そのスタッフはトムに好意を持つという下りがあり、これを自然にできるといえるのは、かなりクセ者である。

映画のトムも、結局かなりのクセ者だった。



以下次号

☆【最近のこれはお見事!】は見事な映画の題名の紹介、反して【最近のこれはまずいぞ!】は「これは、まずいぞ!」と思う題名を紹介しています。

